

< 4 歳児・学年全体の様子 >

4 歳児は 2 クラス共、元森・川の組からの進級児 17 名、新入児 13 名、計 30 名の編成となっている。林の組担任は 3 歳児から持ち上がり、池の組担任は元 5 歳児担任、TT 教諭は元 4 歳児の TT で、新たに出会った学年チームで運営している。

進級児には、新しいクラスや担任、見慣れない友達に対して戸惑い、不安になる様子がうかがえた。進級当初は何気ない様子で過ごしていたのに、最近になって保護者と離れがたくなる人もいて、そんな我が子の姿に戸惑う保護者もいる。新入児の背景は様々で、別の幼稚園や保育所から転園してきた人もいれば、初めての集団生活の人もある。こうした子どもたちのありのままの姿を受け止め、新しい園生活を親子共に安心して受け入れられるよう支えていくことが大切だと感じている。

遊びの様子としては、保育室では製作や描画、ごっこ遊び、廊下ではお店やさん、音楽を流して歌ったり踊ったりするなどの姿が見られ、行動範囲が保健室や遊戯室、コート室へと広がりつつある。園庭では、この時期ならではの虫や草花との出会いがあり、身体を寄せ合って探す姿がほほえましい。池の組の三和土にはボールやすりこ木などの新しい道具を揃え、サツキの花やアジサイの葉っぱで色水づくりなどを楽しんできた。5 歳児が花壇を畑にして野菜の苗を植え、大切に育てている姿を間近に見てきたので、5 月下旬、自分たちも何か育ててみようということで、アサガオの種をまいた。シートの上にプランターの古い土をひっくり返すと、ミミズがたくさん出てきて大騒ぎになった。新しい土を混ぜ込み、ふかふかの土作りも楽しんだ。

6 月に入り、暑さが増してきたので、水に触れながら心地よく過ごせるように、石けんで泡づくりや、新聞をちぎって水に入れて新聞紙粘土づくりを取り入れた。泡のふわふわした感触や、新聞を混ぜていくととろとろになっていく過程を思い思いに味わっていた。

新しい環境の中で、一人ひとりが不安や戸惑いを抱えつつも、様々なモノ・ヒト・コトに関心をよせ、「やってみたい」と動き出すなかで、関わってはみるものの動き出したその先で、ふと不安になったり、気になる友達の動きに合わせるのに精一杯で楽しくなくなったり、相手の気持ちがわからずケンカになったりと、それぞれにもどかしさも感じている。その子なりに自分を出している姿を受け止めながら、遊びの楽しさにつながり、友達と関わっていけるよう、教師も悩みながら支え方を模索している。教師や友達と一緒に過ごすひと時が嬉しい、楽しいと思える体験が次へとつながり、一人ひとりがその人のペースで安心して、自分らしさを発揮していけるようにと願い関わっている。

< 最近の遊びマップ >

4 歳児 林の組・池の組 保育研究シート

(担任) 杉浦真紀子・佐々木麻美・鶴瀬友理

虫探し・草花摘み
幼稚園中の様々な場所で虫などを探し、見つかった人が集まってくる。今は、とにかく「捕りたい」気持ちが大きい様子。クワシの花やアジサイが咲き、お料理のトッピングにも活用。

ビワの木登り
5 歳児に憧れ、いつかは登りたいと思っていたビワの木。今年はビワが豊作。自分の手でとってみたいと、ひそかに練習する姿も見られる。

アサガオの水遣り
5 月にまいた種が発芽。「これが、ぼくの芽!」と言いつつ水遣りする姿がある。とどろきにビワやお花の種もまいた。

ドロボイ
5 歳児の所へ、黄色い帽子を借りに行くことから始まる。今まではもっぱらケイツ役が多かったが、5 歳児と楽しむ中で、少しずつドロボウの面白さが分かってきた?!

すもう
3 歳の頃から楽しんでた。すもうが始まると 5 歳児もやって来て、簡単に負けてしまうことも。自分なりの相手を見つけて取り組むのが楽しい様子。

< 遊戯室 > 5 歳児が開くと少しずつ進出していく 4 歳児…。舞台で音楽をかけて、歌ったり踊ったりするのが楽しい。

< 保健室 > 今年になり、ぐっと近くなった。ケガをしたちょっと寂しい、悲しい時にはケアをもらう。じっくり本をながめたい、少し落ち着きたい時なども、ゆったり過ごせる場となっている。

< コート室 > 狭すぎず広すぎず、それでいて囲まれた空間が心地よい。道具を運び込んでまごごとをしたり、音楽をかけて踊ったりしている。保育室からは遠いけれど、わざわざ出向いている。

描画・製作・積み木・汽車・粘土・ごっこ遊び(お店、忍者、ショー、電車など)
いつでも戻ってこられる、安心できる場所。様々な遊びを通して、関わりが増えてきたが、思いが伝わらずにトラブルになることが多い。それでも、子どもたちの「やりたい」思いを一つひとつ実現できるように支えている。

砂泥遊び・色水づくり・石けん遊び
三和土には、ボール、透明コップ、すりこ木、泡立て器などがあり、それらを活かして遊んでいる。暑くなり、砂場で使う水の量が増えている。別な形でも心地良さを味わえるよう、木陰で石けん遊びや新聞紙粘土も楽しんでいる。

< 3 歳保育室周辺 > 進級児にとっては、昨年一年慣れ親しんできた空間。前の担任に会いに行ったり、お手伝い(のつもり)に行ったりすることが、安心につながる。